

高次脳機能障がいかるた 使い方

はじめに	
<p>「高次脳機能障がいかるた」には、当事者が実際に感じたことや経験したことが書かれています。当事者がどのようなことを感じているか、日本で昔から親しまれているかるた遊びを通して知っていただきたいと思います。岩手県高次脳機能障がい支援普及事業の一環として作成しました。 レクリエーションや認知訓練など、様々な形で利用していただければ幸いです。</p>	
中に入っているもの	
・読み札 46枚 ・絵札 46枚 ・早見表 ・使い方	
遊び方	
<p>1. 基本のかるたのルール（2人以上）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①読み手と取り手を決める ②よく混ぜた絵札を床やテーブルに表を上にして並べる <ul style="list-style-type: none"> ●きれいに並べると見やすくなる ●ばらばらに並べると見えにくいところもあり、難易度が上がる ③読み手が読んだものと同じ絵札をとる。 手が重なった場合、下に手がある人のものとなる ④読み札がなくなった時に持っている絵札が多いほうが勝ち ※違う絵札を取るなど、お手付きをしたら一回休みです 	
<p>2. 50音並べ替え（1人以上）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①絵札、または読み札をよく混ぜて、同じ数ずつ配る ②「あ」「か」「さ」「た」「な」「は」「ま」「や」「ら」「わ」の札を最初に出す ③順番通りに繋がるように並べる。 例)「あ」の下には「い」、「な」の次は「に」を並べる など 複数人で行う時は最初に順番を決めて順番に一枚ずつ置く ④置くことができる札がない場合は、パスをする ⑤複数人で行う時は、最初に札がなくなった人の勝ち 	
<p>3. 神経衰弱（2人以上）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①読み札をよく混ぜて裏を上にして並べる ②絵札をよく混ぜて裏を上にして並べる ※読み札と絵札が混ざらないように場所を離して並べる ③それぞれ一枚ずつめくり、読み札と絵札が合っていたら取る。 正解の場合は続ける 違うカードをめくった場合は元の場所に裏返して置き、次の人に交代する ④終了時にたくさんカードを持っている人が勝ち <p>※2セット使うと「読み札と読み札」「絵札と絵札」で行うこともできます ※あ行とか行だけを使うなど、最初は少ない札から始めるとやりやすいです</p>	

4. 人数集めゲーム（2人以上）

- ①絵札をよく混ぜて裏向きに並べる
 - ②一人ずつ札を選んで一枚ずつ順番に取る（合計3枚）
 - ③カードに描かれている人の合計が多い人が勝ち
 - ④同じ人数の場合は、もう一枚ずつ取って札に書かれた人数が多い方が勝ち
- ※「タイマーを用意して、アラームが鳴るまでに札を取らなければいけない」、「同じ人数の場合、男の人が多い方が勝ち」などのルールを追加することもできます



5. 行そろえゲーム（2人以上）

- ①絵札をよく混ぜて、5枚ずつ配る
- ②山札から一枚引いて、一枚捨てる
- ③最初に行がそろった人が勝ち
- ④山札が無くなったら捨てた札を集めてよく混ぜて山札にする

そろえ方

「あ・い・う・え・お」、「か・き・く・け・こ」、「さ・し・す・せ・そ」
「た・ち・つ・て・と」、「な・に・ぬ・ね・の」、「は・ひ・ふ・へ・ほ」
「ま・み・む・め・も」、「や・ゆ・よ・わ・を」、「ら・り・る・れ・ろ」
※「ん」はオールマイティでどこにでも入れます



6. 体験を語るきっかけにする

交流会などで話をする時、なかなかきっかけがつかめない時にテーマを決めるためにカルタを使う事もできます。

※他にもいろいろな遊び方があると思います。もし、面白い遊びを思いついた！という方は連絡を下さい。

お問い合わせ

公益財団法人いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援普及事業担当 上田・大江
TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807 E-mail：koujinou-shien-reha@irc.or.jp